

学校では、性教育が義務づけられている。初等教育学校では、児童のニーズや性格、学校の理念に従いながら性教育にアプローチする最善の方法を決定する。そのうえで、保護者や地方自治体の責任者知事との協議の上で、個々の学校で実施される。

9. パーソナル&ソーシャル教育 (PSE)

ウェールズにおけるパーソナル&ソーシャル教育は、7歳から16歳までのすべての児童・生徒のカリキュラムの一部であり、また14歳から19歳の学校やカレッジのための学びの核でもある。この目標は、学習者の個人および社会性の発達と幸福を支援し、促進させることである。

10. キャリアと世界の仕事

キャリアと世界の仕事は、11歳から16歳の児童・生徒のためのカリキュラムの一部であり、14-19歳の学校や継続教育カレッジにおける学びの核の一部である。

11. 宗教教育 (RE)

宗教教育は、すべての生徒のための法的な科目である。宗教教育は、英国の宗教的伝統が国で表される他の主要な宗教の教えと実践を考慮しながら、クリスチャンであるという事実を反映する必要がある。

(2) ウェールズにおけるパーソナル&ソーシャル教育 (PSE)

1. PSEの概要

PSEは、学校が学習者の個人的および社会的発達と幸福を支援し、促進するすべてを示す。それは彼らがより多くの情報や他者と対話する自身と技術を身につけ、社会に積極的かつ責任をもって参加することを可能とする。PSEはウ

ェールズの法に定められた要件であり、基本的に、学校が計画する必要がある。その内容は、基本的に広い、バランスの取れたプログラムを提供し、学校が計画する必要がある。また、学校が学習者の特定のニーズを満たすために、PSEの広い、バランスの取れたプログラムを計画し、提供しなければならない。

ウェールズの7から19歳の児童生徒のためのパーソナル&ソーシャル教育のフレームワークは、学校がPSEのプログラムを開発するための重要な文書であり、PSEの広範でバランスのとれた総合的なアプローチのための基盤を提供している。

それは5つの主要なテーマ：活動的な市民感覚、健康・感情的な幸福、道徳的・精神的発達、生涯学習、持続可能な発展と地球市民のための準備：を含んでいる。

PSEのフレームワークそのものは、文書法定ではないので、地元の自治体や地域のパートナーと協力して、学校とPSEプログラムのコンテンツと配信を決定する。

2. 学校に期待されること

学校は、幅広くバランスのとれたPSEの実施を期待される。これは、PSEの枠組みに定められた学習成果の範囲のすべての能力の学習を可能にすることを意味している。しかし、それは学校がPSEの枠組みの中でリストされているすべての学習成果に到達するために学習の機会を提供しなければならないという意味ではない。学校は5つのテーマの各々に学習成果のバランスの取れた範囲を目指すべきである。

3. PSEにおける学校全体のアプローチ

すべての教師や講師がPSEに貢献するように、効果的な条件が非常に重要になる。それぞれの学校やカレッジでは、総合的なPSEの提供を管

理するための総合的な責任を持つスタッフを有する必要がある。初等教育学校では、これは通常、教頭になるだろうし、中等教育学校やFEカレッジでは、シニアリーダーシップチームのメンバーになる。学習者の個人および社会的な発達を学習カリキュラムにより、また学校やカレッジの一般的な生活の特徴である計画的な経験の両方によって促進される。

4. ウェールズの法律的な評価

PSEの法定評価の要件はない。しかし、学校では、進捗状況と今後の学習を監査するために、PSEのフレームワークの中で生徒の進行状況を追跡することになる。PSEは、外部から認定される19から14歳の学習者のためのウェールズ・バカロレア資格コア研究の要素である。

5. 学校への支援

ウェールズ政府は、効果的な実践を支援するためにウェブベースで支援や助言実施している。より詳しくは、www.wales.gov.uk/personalandsocialeducationで見られる。

情報、アドバイス、サポートは、ウェールズ政府経由で地方のPSEアドバイザー・スタッフ、ウェールズのヘルシー・スクール・ネットワークのコーディネーター、すべてのウェールズのLAPSE支援グループを通しての利用も可能である。

6. PHEの監察標準

Estyn、ウェールズのナショナル・スクールの監査のための組織は、彼らが監査し、任意の学校の学習者の精神的、道徳的、社会的及び文化的な発達を報告し、そして彼らの幸福のために学校が行った貢献について報告する必要がある。その報告は、学校のPSEプログラムの評価に有用な証拠を提供する。

(3) インタビュー調査の結果

1. 教育カリキュラムの概観

ファンデーションフェーズでは、学習内容よりもスキルに重点を置き、また、幅広いカリキュラムを配置している。これが、レベル2、レベル3になるためには試験がある。

ファンデーションフェーズの後に12の法定カリキュラムを実施する。ファンデーションから2への移行が難しかったり、キーステージ3に移行する時は逆に戻ってしまったりもすることもある。これらに対しては、小学校の先生とセミナーをやってキーステージ3にスムーズに移行できるようにセミナーを実施している。

PSEのなかでこれをやりなさいという指針はあるけれども、指針であって必ずやらなければならないという義務的ではない。例えば、今はライフ・セービング・スキルをPSEに盛り込もうと考えている。ブリティッシュ・ハート・ファンデーションという団体がそのような活動をしている。このような活動は、学校に強制することはできなくて、学校各自でスペシャリストを呼んで独自にやっている状況である。PSEは、5歳から16歳までは、法で定められている教科ではあるが、どうやるかまでは規定されていない。教師たちの99.9%は、そのフレームワークに従う。5個大きなテーマがあり、例えば、市民としての積極性、政治的な関心、人間関係、心身の健康と幸福がある。そこががん教育を組む込もうと思えば組み込める。ここでは、薬物、性教育、安全、健康生活、責任ある判断、道徳と精神性、スピリチュアル、倫理、人生とは何か、生涯学習、お金の扱いかた、キャリア形成、世界市民、世界市民にどうなるかなどがある。そして、それらはお互いに関連し合っている。従って、一つのテーマを選んだら次のテーマに

関連づけられると考えられる。

しかし、教育技術局として学校に強制はできないから、だいたいの学校はやってくれるけど、100%徹底できない。

幅広くバランスのとれたPSEをやれるように考えていて、スキルベースで実施している。フレームワークの内容を狭めてしまうと何か一つやって他はやらないようにならないようになってしまうので、間口を広くしておく必要がある。

たばこ、アルコールなど合法的なもの、あるいは非合法的な薬物であってもがんを防ぐのに何をするのかということは健康に過ごすことにもつながるので、学校に対しては一回がんについての授業をするのではなく、英語の中、科学の中に組み込んでいくことが、認識を高めることができると思う。例えば、キャンペーンのような形で展開する可能性もある。

学校の教師は、12の科目について到達しているかを評価する必要があり、その評価を下した判断基準を示さないといけない。そして、監査の人がその生徒をみて、教師の評価と整合性があるかを確認する。しかし、PSEはそのレベルがない。

2. 疾病についての取り扱い

疾病については科学で扱うのかという質問に対して、HIVや性感染症予防については、性教育で取り扱う。がんや他の病気については、科学で取り扱えるけれども、何を食べるかという観点では扱えない。すなわち、がんを防ぐためにこれをしなければならないという事は組み込めない。疾病予防も含む保健教育は、日本のオリジナリティーであろう。

3. 体育 (PE) とPSEの関係性

体育の中でも何を食べたらうまくスポーツ

ができるかという内容は含んでいる。「フード&フィットネス」という冊子教材を配布しているので教えることもできるだろう。

3. PSEの専門家養成

PSEは科学の教師や副校長が担当することが多い。ただし、共通テストにPSEはない。また、PSEの学位は無いのでPSEの専門養成コースはない。しかし、教職課程でPSEに関する知識は無いといけない。たいていが学校で教えるうちにスペシャリストになる。

また、科学の先生は他にも教えることがあるのでPSEのみに時間をかけられないし、自分が得意でない場合に専門科を連れてくる傾向にある。教員もベーシックファーストエイドはできるけど教えたがらない傾向にある。従って、ブリティッシュ・ハート・ファンデーションをつれてくるということに繋がる。

4. 教師のPSEに対する自己啓発活動

ウェールズPSEアドバイザーグループというグループがある。自治体のコーディネーターが会合を開き、学校レベルでどんなことをしているかが話あわれ、意見が交換される。教育技術局の職員も参加する。どの自治体にもPSEコーディネーターいる。そして、ヘルシースクールアプローチやPSEを手伝ったりする。

5. 学校を取り巻く団体について

先述のブリティッシュ・ハート・ファンデーションなどの団体は学校で活動をさせてほしいという圧力をかけてくることもある。それらの団体は、政府の支援を受けていることが多いので、半分は公的な存在ともいえるだろう。セーフ・ガーデンのように警察官が学校に出向いて安全教室を実施する活動もある。

学校の先生は忙しいのでそのような支援団

体に感謝をするだろう。ただし、学校によってやりたいことは違うし、監査もあるので教師はその活用と運用に責任を持っている。

6. がん教育に関する見解

がんに関して、慈善団体的なところは来ていない。がんについては、繊細な問題でもあるので学校で取り上げるのは難しい。例えば、祖父ががんで死んだ児童・生徒もいるので、内容を幅広くして、常識に従って、あくまで自然にやれるほうがよいと思う。

がんで身内を亡くしたりした児童・生徒に対して、グリビング・トレーニングなどを実施してもよいかもしれない。学習内容に関する人的ネットワークがあって、何かあったら医者が学校に行くこともある。やりにくとおもったことは他の人に頼むという傾向もあるかもしれない。がん教育については前向きなメッセージを与えることが大事だと思し、ヘルスメッセージを送ることはできる。

6. 予算について

英国政府がヘルシー・スクールに関する予算をカットしたという話に対して、ウェールズの政府はそうは決めなかったし、教育についてはウェールズで取り決めをしているという回答が得られた。

D. 考察

今回の資料調査とインタビュー調査では、日本におけるがん教育に関する教育プログラムを構築するために、英国・ウェールズの学校健康教育と日本の学校健康教育を比較することがプログラム開発の手がかりになると考えられた。

まず、英国・ウェールズの健康教育の優れた点は、学校の状況やニーズに応じて慈善団体を

はじめとする地域の活動団体を学校および児童・生徒のニーズに合わせた形で柔軟に取り入れられるという点である。また、それらの団体の多くは政府の助成によって成り立っている団体である。

残念ながら、がん教育についての直接的な情報を得られなかったものの、例えば、ライフ・セービング・スキル・ライフ・セービング・スキル教育をPSEに盛り込み、その際にブリティッシュ・ハート・ファンデーションを活用しようという視点からは、学校が任意団体を活用し、学校全体で包括的かつ自然ながん教育の展開も可能であることが示唆される。ただし、それは児童・生徒および保護者および学校からの必要性が前提となる観点も忘れてはならない。また、毎年学校が監査を受けるために偏った教育を実施できないと考えられる。

その一方で、今回のインタビューからは、日本における学校健康教育や保健学習の有用性が明らかになった。すなわち、英国・ウェールズのように疾病のメカニズムや内容については科学で扱い、予防行動については、性教育やPSEで扱うのではなく、小学校体育および中学校・高等学校保健体育というひとつの教科によって、メカニズムや内容予防を包括するプログラムを構築できるという点である。教科体育・保健体育を軸としてさらに、総合的な学習や関連する教科（例えば、家庭科や社会科）や特別活動および道徳を有機的に結びつけることによって、より学校全体としてのがん教育の展開も可能であろう。

また、教師の専門性という観点からも、公衆衛生や学校保健などの保健科目を必修とし、教育心理学や教育学などの教職専門科目、保健科教育法を履修している保健体育教員が存在するので、疾病の内容論や予防行動に対する取り扱いについても保健体育教員を中心に十

分に取り扱いが可能であると考えられる。

さらに、英国・ウェールズのインタビューからもわかるように、学校の独自性が確保される一方で、国あるいは州としての統一性は非常に大まかなくくりでしか確保されていない。したがって、日本のように教科に位置づけられ、学習指導要領に内容が明示され、公教育の小学校、中学校、高等学校である一定時間を保健学習として確保できるというメリットもある。逆に言えば、学習指導要領の内容を順守する必要性があるので、現行の学習指導要領に即した形でどのようにがん教育を展開できるかを考慮したカリキュラム開発が重要となろう。

E. 結論

英・ウェールズの学校健康教育を通すことで、日本におけるがん教育のカリキュラム開発に関する視点が明らかになった。すなわち、現行学習指導要領の中でがん教育のプログラムを開発することが、より多くの児童・生徒にがんに対するリテラシーを高める結果となると予測された。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産の出願・登録状況

なし



Llywodraeth Cymru
Welsh Government

Wales Education Overview

Government in Wales

Since 1999 there has been a National Assembly for Wales. Although policy and laws governing defence, foreign affairs, taxation and social security remain under UK government control, many other public services come under the control of the devolved administration in Wales.

The National Assembly for Wales has the power to make decisions on matters such as education, the environment, health services, transport and local government, and to pass laws for Wales on these matters.

The Department for Education and Skills is responsible for education and skills in Wales and works to raise the standards of education and training provision, attainment and infrastructure across Wales so that everyone can reach their potential; delivering a suitably skilled workforce with high-quality opportunities for all learners; supporting individuals, families, communities and businesses in improving economic and social well-being and reduce inequality through education and training

The Curriculum Branch is responsible for keeping the school curriculum (and its assessment arrangements) under review and advising the Minister for Education and Skills accordingly. We work with schools and the 22 local authorities to meet the needs of learners in Wales.

Collaboration

The Welsh Government works together with schools, local authorities and Estyn to bring about the changes needed to secure the best outcomes for all children and young people.

Estyn (Her Majesty's Schools Inspectorate for Education and Training in Wales) inspects the quality and standards in education and training providers in Wales. It also provides advice to the Welsh Government on quality and standards in education and training in Wales; and promotes the spread of good practice in education and training.

Number of schools in Wales

- 22: Nursery; ages 3 to 5
- 1423: Primary; ages 3 to 11
- 221: Secondary; ages 11 to 16 or 11 to 18
- 43: Special; ages 3 to 18
- 67: Independent

(Source school census 2010)

The School Curriculum

Wales has its own curriculum for 3 to 19-year-olds and new curriculum arrangements were introduced in 2008. One of the main aims of the curriculum is to reduce prescription and give schools and learners greater control over what is taught. Subject content has been reduced, skills development has been promoted and greater flexibility given to schools on how the curriculum is implemented. The curriculum comprises the:

- Foundation Phase (3-7 year olds) framework;
- National curriculum subjects for 7 to 14-year-olds; Welsh, English, mathematics, science, art and design, geography, history, information and communications technology, modern foreign languages, music, Physical education;
- Personal and social education (PSE) framework;
- Careers and the world of work (CWW) framework;
- National exemplar framework for religious education.

The curriculum documents, providing the detail of what is to be taught at each key stage and the attainment targets set out the expected standards of pupils' learning, can be found at www.wales.gov.uk/educationandskills

There are no constraints about time allocations or organisation of subjects, but schools must ensure continuity and progression in learning and that all learners have access to the whole programme of study.

Statutory Assessment Arrangements

Wales abolished national curriculum tests for 7 year olds in 2002, for 11 year-olds in 2004 and for 14 year-olds in 2005. We have no league tables. Statutory assessment is through teacher assessment only. Schools must undertake end of key stage statutory assessment for 7, 11 and 14-year olds, reporting to parents and providing national data to the Welsh Government as follows:

- 7-year olds (Key Stage 1 until 2011) English, or in Welsh medium schools Welsh, mathematics and science;
- 11-year olds (Key Stage 2): English and Welsh (first language), mathematics and science. From 2009-10 schools must also assess Welsh second language for reporting to parents.
- 14-year olds (Key Stage 3): all the national curriculum subjects.

Ministerial Priorities

The Welsh Government has three inter-related priorities: improved literacy levels, improved numeracy levels and reducing the impact of poverty on educational attainment. We want to achieve better learning outcomes and well-being for all regardless of socio-economic background and reduce the variation in learning outcomes within and between classrooms, schools and local authorities.

National Literacy and Numeracy Framework

In order to achieve these goals a new statutory National Literacy and Numeracy Framework has been developed and was introduced in schools on a non-statutory basis in September 2012, and will be on a statutory footing from September 2013. The Framework provides schools with annual expected outcomes in literacy and numeracy for learners aged 5 to 14. This will help inform teachers of all subjects on how they need to apply literacy and numeracy across the curriculum in order to raise levels of attainment.

The School Curriculum and other curriculum requirements

The Foundation Phase Curriculum for 3 to 7-year-olds

Statutory areas of learning
Personal and social development, well being and cultural diversity
Language, literacy and communications
Mathematical development
Welsh language development+
Knowledge and understanding of the world
Physical development
Creative development
Other statutory requirements
Religious education*
Sex education#

+ Welsh language development is a requirement in English-medium settings/schools only.

* Religious education must be provided for all registered children in maintained schools, including those in reception classes but excluding children in nursery schools and nursery classes

Primary schools in Wales are required to have a policy on sex education.

The National Curriculum 7 to 16-year-olds

KS2 (7-11)	KS3 (11-14)	KS4 (14-16)	Post-16
Statutory national curriculum requirements			
English	English	English	
Welsh+	Welsh+	Welsh+	
Mathematics	Mathematics	Mathematics	
Science	Science	Science	
Art and Design	Art and Design		
Design & technology	Design & technology		
Geography	Geography		
History	History		
ICT	ICT		
Modern Foreign Languages (optional for 10 year olds)#	Modern Foreign Languages		
Music	Music		
Physical education	Physical education	Physical education	Physical education
Other statutory requirements			
Sex education*	Sex education*	Sex education*	Sex education*
	Careers and the world of work°	Careers and the world of work°	Careers and the world of work°
Personal and social education	Personal and social education	Personal and social education	Personal and social education

+ refers to the models for Welsh and Welsh second language.

There is Key Stage 2 non-statutory framework for modern foreign languages.

* Primary schools in Wales are required to have a policy on sex education.

The National Curriculum 7 to 16-year-olds

The curriculum documents, providing the detail of what is to be taught at each key stage and the attainment targets set out the expected standards of pupils' learning, can be found at www.wales.gov.uk/educationandskills

Other Curriculum requirements

Sex education

All maintained schools must, by law, have an up-to-date written sex education policy, which is available for inspection, particularly by parents. In all maintained secondary schools, sex education is compulsory. In primary schools, it is for the individual schools, in consultation with parents and governors, to determine how best to approach sex education, in accordance with pupils' needs and the character and ethos of the school.

Personal and social education

Personal and social education (PSE) is part of the curriculum for all pupils aged 7 to 16 and is also part of the 14-19 Learning Core for schools and colleges. Its purpose is to support and promote learners' personal and social development and well-being.

Careers and the world of work

Careers and the world of work is part of the curriculum for all pupils aged 11 to 16 and is also part of the 14-19 Learning Core for schools and further education colleges.

Religious education (RE)

RE is a statutory subject for all school pupils, apart from those who have been withdrawn by their parents. RE must reflect the fact that the religious traditions in Great Britain are in the main Christian whilst taking account of the teaching and practices of the other principal religions represented in the country.

Personal and social education (PSE) in Wales: Overview

PSE is everything that a school does to support and promote the personal and social development and well-being of its learners. It equips them to be more informed, confident and skilled to interact with others and enables them to take an active and responsible part in society.

PSE is a statutory curriculum requirement for schools in Wales

Yes. Essentially, schools must plan and deliver a broad, balanced programme of PSE to meet the specific needs of learners.

Personal and social education framework for 7 to 19 year-olds in Wales

The *Personal and social education framework for 7 to 19-year-olds in Wales* is the key document which schools should use to review and develop their PSE programmes and provides the foundation for a broad, balanced holistic approach to PSE

It contains five main themes: Active citizenship, health and emotional well-being, moral and spiritual development, preparing for lifelong learning and sustainable development and global citizenship. These themes are not discrete areas of development but are inextricably linked.

The key stage learning outcomes for each theme are presented under the heading 'Range'. The 'Range' section details the attitudes and values, and knowledge and understanding that should be used as learning contexts to develop PSE-related skills.

The PSE framework is not statutory a document

Decisions on the content and delivery of a PSE programme lie with schools, working with their local authorities and other local partners. This gives them the flexibility to focus on any aspects that are relevant to their situation and best meet the needs of their learners.

The expectations on schools

Schools are expected to deliver broad, balanced PSE. This means enabling learners of all abilities to reach a range of learning outcome as set out in the PSE framework. It does not mean that a school must provide opportunities for learners to reach every learning outcome listed in the PSE framework. Schools should aim for a balanced range of learning outcomes across each of the five themes.

Holistic or a whole school approach to PSE

As all teachers and lecturers make a contribution to PSE, effective coordination is crucial. Each school and college needs to have a member of staff with overall responsibility for managing holistic PSE provision.

In a primary school this will normally be the head teacher, while in a secondary school or FE college this will be a member of the senior leadership team.

The personal and social development of learners is promoted both by the taught curriculum and also by planned experiences which are features of the general life of the school or college. A coordinated programme will make use of opportunities in other subjects, discrete PSE sessions and focused activities.

PSE is not statutorily assessed in Wales

There are no statutory assessment requirements for PSE. However, schools will want to track pupils' progression across the range of PSE learning outcomes identified in the PSE framework in order to monitor progress and plan future learning.

PSE is however, an element of the Welsh Baccalaureate Qualification core studies for learners aged 14 to 19 which is externally accredited.

Support for schools

The Welsh Government has web-based guidance to support effective practice, which also makes links to other relevant Welsh Government documents. For more details visit:

www.wales.gov.uk/personalsocialandeducation

Information, advice and support are also available locally across Wales from local authority PSE advisory staff, the Welsh Network of Healthy Schools coordinators and the All Wales LA PSE Advisory Group.

Monitoring standards in PSE

Estyn, the national school inspection organisation in Wales, is required to report on the spiritual, moral, social and cultural development of learners at any school they inspect, and to report on the contribution made by the school to their well-being. Their reports provide useful evidence for the evaluation of a school's PSE provision.

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究

分担研究年度終了報告

ウェールズにおける健康教育
—Creigiau Primary School を対象とした調査研究—

研究分担者 杉崎 弘周

新潟医療福祉大学 講師

研究要旨：本研究では、がんに関する教育のプログラムの開発に向けた基礎資料の収集のために、ウェールズの小学校の取り組みについて、担当者への聞き取り調査およびホームページや収集資料の分析を行った。聞き取り調査では、教育活動の概要および健康教育プログラムについて半構造化インタビューを実施した。その結果、ウェールズの学校教育における教科およびThe local healthy school schemesの概要と方法など有益な情報を得ることができ、我が国への適用可能性や課題が明らかとなった。今後は、我が国のがんの現状と学校教育制度を踏まえ、がんについての教育プログラムのあり方について検討する必要性が示唆された。

研究協力者

植田誠治（聖心女子大学 教授）
物部博文（横浜国立大学 准教授）
助友裕子（国立がん研究センター 研究員）
森 良一（国立教育政策研究所 研究員）

を明らかにすることを目的として、ウェールズの小学校を訪問した。我が国には見られない特徴的な教科の構成や進行中の健康教育プログラムの概要について調査を実施した。

A. 調査目的

がんが我が国の死亡原因の1位になって久しいが、学校健康教育においては生活習慣に起因する病気の予防が学習内容として含まれており、がんについては高等学校において触れることとされている[1][2][3]。

学校健康教育でのがんについての教育プログラムの作成に当たり、保健体育以外の教科・科目におけるアプローチや授業レベルに限らない学校教育全般での取り組みとその評価を視野に入れる必要がある。

そこで本研究では、がんについての教育を学校健康教育に導入する可能性を探るため、特徴的な教科や健康教育のプログラムの実施状況

B. 調査方法

2013年3月、ウェールズのCreigiau Primary School を訪問し、The local healthy school schemesの実施状況と学校の教育活動の概要について半構造化インタビューを実施した。インタビューは1時間程度実施され、1名のコーディネーターのもと3名のインタビューが質問をし、1名は記録係として同席した。インタビューのやりとりは対象者の許可を得たうえでICレコーダーに記録した。これに加え、学校HPの情報、Indicators for the Welsh Network of Healthy School Schemes National Quality Awardの冊子についても分析した。

C. 調査結果

(1) 対象者

インタビュー対象者となったのは、Creigiau Primary Schoolの担当者1名であった。

(2) 学校の概要

地区の中心の学校であり、入学に関する制限は標準的な学年の人数は54名人数である。人気の学校で、例年入学希望者が多いとのことであった。在籍児童数は約400名であり、教職員数はティーチングスタッフが20名、ティーチングアシスタントなど、ノンティーチングスタッフが37名であった(2013年訪問時)。

(3) Indicators for the Welsh Network of Healthy School Schemes National Quality Awardについて

ア 概要

Indicators for the Welsh Network of Healthy School Schemes National Quality Award は冊子になっており、指標を評価規準、事例などを参照することができる(図1)。7つの領域(Food and Fitness, Mental and Emotional Health and Well Being, Personal Development and Relationships, Substance Use and Misuse, Environment, Safety, Hygiene)があり、それぞれに指標と評価規準が設けられている。

取組状況として6つのPhasesがあり、Phase 1から3は1年に1つずつ進み、Phases 4から6では2年に1回進むことになっている。Phasesの終了時には独立した評価者が評価を行うことになっており、学校側は実施のエビデンスの提示が求められる。

イ 評価プロセス

①指標は、Phase6にある時に様々な方法で評価される。

②コーディネーターがエビデンスのポートフォリオを準備し、指標について評価して進行を記載する。エビデンスには、ポリシー、トレーニング・レコード、学校案内、親への年次報告、親への手紙、学校開発計画の該当セクション、Estynレポート、予定表、作業計画、マガジン、ニュースレター、ウェブサイト、学校会議の時間なども含むことができる。

③Phase6が終了し、エビデンスが揃うと、独立した評価者が学校評価のために訪れ、ドキュメントと学校審議会または生徒のグループからのプレゼンテーションを受け、生徒主導の学校案内を受け、機会をとらえて学校スタッフと話をする。

④学校は、独立した評価のために、すべての指標を示す。そして、評価者は、健康への包括的なアプローチ提供されたエビデンスについてコーディネーターとディスカッションを行う。学校訪問中は、評価者は職員生徒すべてに浸透し、理解されている健康へ包括的なアプローチを見出す。

ウ Creigiau Primary Schoolでの現状

現在、Phase2とのことであった(図2)。毎年、担当者によって、次の段階へ進むのに十分な成果があったかどうかを評価されている。年間を通じて、行ったことをエビデンスとして残さなければならず、これは最終的に評価者によってエビデンスを確認されるからである。PSE(Personal and Social Education)コーディネーターがいて、その人物がエビデンスのポートフォリオの最終的な責任を負うことになる。しかし、包括的な取組であることから、職員全員でPhase1を通過したという考え方になる。

Phaseが進むと、自らで3つの目標を課すことになっている。Creigiau Primary School

でのPhase2における3つのアクションエリアは、1) Physical Education and Fitness, 2) Safety, 3) Hygieneとのことであった。1) Physical Education and Fitness において行ったのは、PESS (PE & School Sport) というプログラムであった(図3)。PESSについてはウェールズ独自のものでweb上に紹介がなされている(図4)。

(4) 特徴的な教科について

ア PSE

Creigiau Primary SchoolにおけるPSEとは、Personal and Social Educationであり、英国のPSHEとは異なり、ウェールズ全体でも実施されている。PSEは、子どもたちにpersonal (人格) やsocial (社会性) の涵養するために、学校が試みるものすべてのことを含んでいる。つまり、カリキュラムで計画された学習体験や機会と他教科や領域での学習経験を含んでいるということなる。

PSEは、5歳から11歳のPrimary Schoolで教えられることになっており、子どもたちの情緒面での発達で中心的な役割を果たす。

チャリティー基金、特別なイベントなど社会参加への積極的を促すためにディスカッション、調査、問題解決活動などを取り入れている。

PSEを教える際、教師は個々の子どものニーズに合った学習の機会を提供しているが、個々の教育プランの中で子どものために設定された目標を考慮に入れる。さらに、教職員と子どもが一緒になったイベントやアプローチ(例えば教職員と子どもの合同会議など)を通してPSEを発展させる。

先述したPSEコーディネーターは、適切なトレーニングコースに参加し、他の教職員に情報を提供する。PSEコーディネーターは、適切なリソースを共有し、スタッフが実行できるよう

に助言する。PSEのためのリソースは職員室において利用可能で、PSEコーディネーターによって管理されている。さらに、いくつかのリソースは個々のクラスおよび学校図書館において利用可能である。

イ Sex & Relationship Education

SRE (Sex & Relationship Education) は、全体のカリキュラムの一部であり、ナショナルカリキュラムの科学、英語とウェールズ語の両方によるディスカッションに関連するプロジェクトの一部でもある。

教職員は、デリケートなトピックの質問に対して、バランスよく適切に回答する。AIDS、避妊および同性愛のようなトピックに関する質問に対しては、教職員によって議論され、同意を得て受理された回答が提案される。こういったトピックは、子どもからの質問に応じてカバーされ、教職員から投げ掛けはしない。

SREの内容としては、以下があげられている。

- (a) PSE.frameworkにおいて教え始まる初期の年から発展し年齢と成熟によって発展していくものやテーマ別のカリキュラムアプローチにあって発達していく教育の一部である
 - (b) 人との結びつきへの前向きな姿勢を育む
 - (c) 自己の気付きと他者への感受性を高める
 - (d) 子どもが人脈の中で振る舞いに対する責任をとることができ、かつそこでで情報に基づき選択することができるようする
 - (e) ケアリングと愛によって自己と他者に対する尊敬を深める
 - (f) 身体的、情緒的、社会性の発達の様々な様相に関する適切な情報を提供する
- これらに対して、あるべきではないSREの考え方を以下のようにしている。
- (a) 身体に関する単なる情報ではない

- (b) 生殖に関する単なる情報ではない
- (c) 外部の者による1回限りの話ではない
- (d) 特別の危機に対する対応ではない
- (e) 孤立したものとして教授の枠組みの外で
教えられるものではない

ウ Physical Education

体育は子どもの発育や健康に重大でかけがえのない貢献をするものである。また、体育プログラムは、子どもたちに自信をつけて、かつソーシャルスキルを高める機会を提供する。

個人と集団のバランス、創造性、健康、身体活動とより良い状態、協力と競争の活動などを提供することによって、個々の子どもの必要を満たすことが目指されている。

体育の学習場面は、段階的な学習と様々な教授スタイルに基づき、刺激的で、楽しく、挑戦に満ちたものであるべきである。すべての機会は健康で活発なライフスタイルの恩恵を理解することを促がすためのものとなるべきであるとしている。

D. 考察

本研究対象となったのは、Creigiau Primary SchoolおよびウェールズのThe local healthy school schemesであった。学校教育において健康に関連する教科にがんの予防に関わる健康増進の内容及び、PSEやSREといった特徴的な教科が取り入れられていた。これら教科をそのまま我が国に取り入れることは難しいが、教科のねらい、考え方、内容などをがんについての教育に応用できる可能性は高い。特に、SREにおける理念などは、今後のプログラム作成の参考になるものである。

The local healthy school schemesの枠組みを我が国の制度で考えた場合、学校保健安全計画が該当するであろう。しかし、今回の訪問

調査で明らかとなった、エビデンスの蓄積、客観的で継続的な評価（アセスメント）、あるいはPhaseを進行させるという考え方は、学校教育におけるがんについての教育を推進する上で、計画・実行・評価のフレームワークの参考資料になり得るであろう。

E. 結論

本研究では、英国ウェールズのCreigiau Primary Schoolを訪問して調査を行った。その結果、ウェールズの学校教育における教科、The local healthy school schemesの概要と方法など有益な情報を得ることができ、我が国への適用可能性や課題が明らかとなった。今後は、我が国のがんの現状と学校教育制度を踏まえ、がんについての教育プログラムのあり方について検討する必要性が示唆された。

文献

- [1] 文部科学省. 小学校学習指導要領解説 体育編. 2008.
- [2] 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編. 2008.
- [3] 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編. 2009.

F. 研究発表

- 1. 論文発表
なし
- 2. 学会発表
なし

G. 知的財産の出願・登録状況

なし

Action Plan
School: Creigiau Primary School
Phase: 2
Valid from: June 2010 to June 2013

Audit of previous action areas: Please identify action areas from previous phase(s) under each of the following:					
Action area:	Phase 1 actions completed:	Phase 2 actions completed:	Action completed/phase:	Action completed/phase:	Action completed/phase:
Nutrition					
Physical education and fitness	PESS2 development / revise PE scheme of work / increase attendance to PE clubs				
Mental and emotional health and wellbeing	Anti-bullying / Pupil of Week/Rainbow box / Transition with KS3				
Personal development and relationships					
Substance use and misuse					
Environment	Achieved Green Flag / Developed school garden and activity trail				
Safety					
Hygiene					

☒ 1 Creigiau Primary School における The local healthy school schemes

Action Area 1: Physical Education and Fitness						
Planned task:	WNHSS aim:	Lead person/ People/ Agencies Involved:	Time scales:		Evidence / Monitoring (how?):	Training/ Resources/ Support Needs/costs:
			Start Date	End Date		
To introduce Dragon MultiSkills initially to Year 3 (English Section) and then to the rest of Year 3 and 4		Lee Balbini (PE Coordinator) Sue Griffin - Dragon Multiskills	January 2013	ongoing	Planning and Evaluation Photographs Talk to staff delivering programmes	Dragon MultiSkills leader to support staff initially
To develop PESS schemes of work across the school <ul style="list-style-type: none"> Dance Gym 1, 2 and 3 Adventurous Activities Play to Learn Dragon Multiskills In the Zone 		Lee Balbini (PE Coordinator)	June 2010	March 2013	Scheme of Work Teachers' Planning Talk to staff delivering programmes Discuss with Y6 pupils Lesson monitoring notes by PE Coordinator	INSET sessions, Staff training and supply cover
Sponsored event to raise money for sports equipment - Skipathon		School Council Sharon Moore - staff member on School Council	March 2012	March 2012	Photographs Talk to School Council	Skipping ropes, staff involvement School Council time

☒ 2 Creigiau Primary School における Action Area1:Physical Education and Fitness

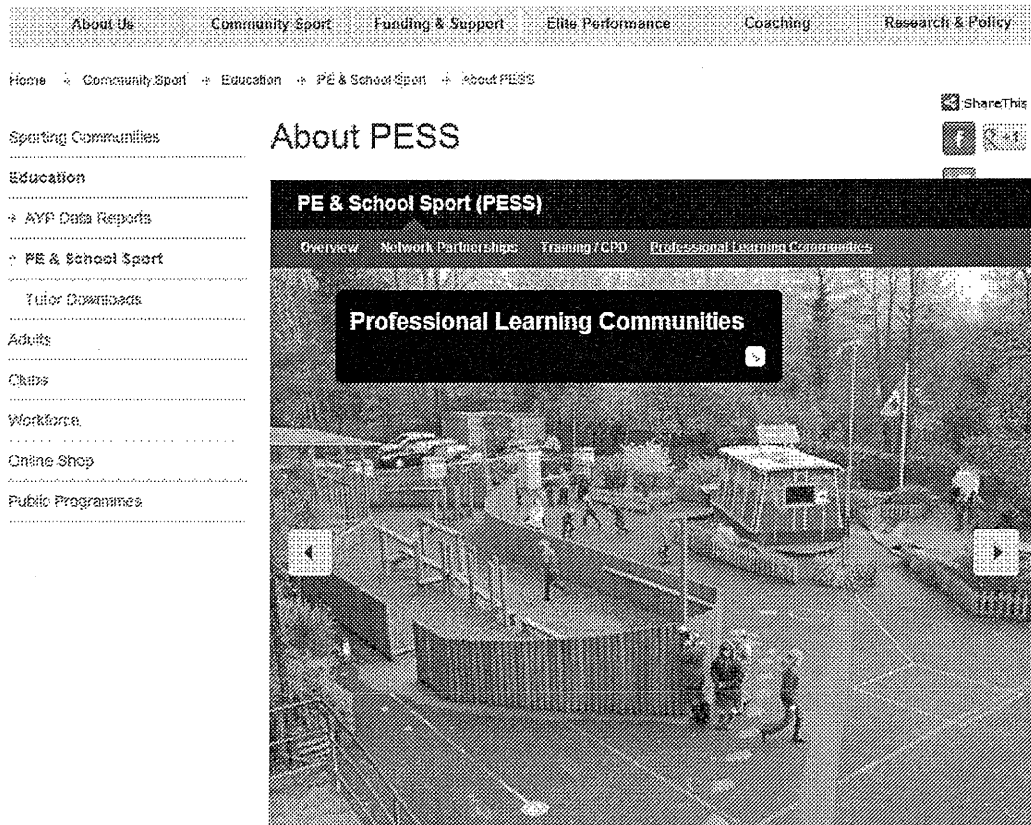


図3 PESSに関するwebサイト
 (<http://www.sportwales.org.uk/community-sport/education/pe-school-sport/about-pess.aspx>)

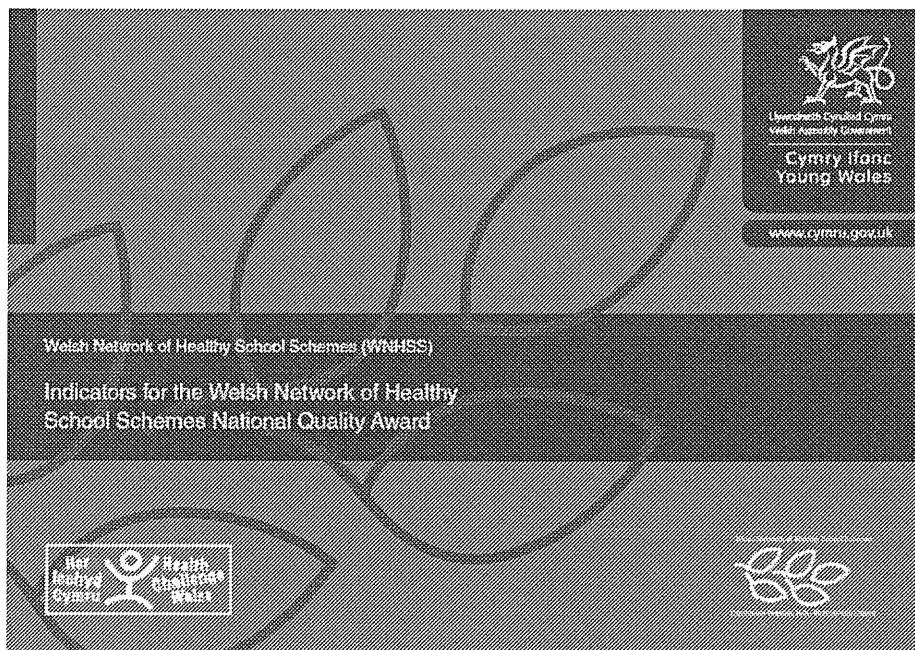


図4 Indicators for the Welsh Network of Healthy School Schemes National Quality Award
 (この冊子は英語版とウェールズ語版が合本されている)

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
助友裕子	都道府県のがんの教育・普及啓発の取り組みと第二期への期待	保健医療科学	61巻 6号	598 - 606	2012

(特集：新たながん対策の推進—第二期のがん対策基本計画を踏まえて—)

<総説>

都道府県のがんの教育・普及啓発の取り組みと第二期への期待

助友裕子, 片野田耕太

国立がん研究センターがん対策情報センター

Japan: Cancer education and diffusion in prefectures

Hiroko YAKO-SUKETOMO, Kota KATANODA

Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center

別 刷

保健医療科学 Vol. 61, No. 6, pp. 598~606

2012

特集：新たながん対策の推進—第二期のがん対策基本計画を踏まえて—

<総説>

都道府県のがんの教育・普及啓発の取り組みと第二期への期待

助友裕子, 片野田耕太

国立がん研究センターがん対策情報センター

Japan: Cancer education and diffusion in prefectures

Hiroko YAKO-SUKETOMO, Kota KATANODA

Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center

抄録

2012年に閣議決定された次期がん対策推進基本計画には、新たに追加された3分野のひとつに「がんの教育・普及啓発」が位置付けられた。本稿では、いくつかの先行事例を取り上げその多様性を論じるとともに、今後の都道府県がん対策推進におけるがんの教育・普及啓発の展開可能性を検討した。児童から成人までの一般国民に適切ながん対策情報を伝え、がんに対するイメージを変容させ、がん患者との共生社会を実現させるためには、大別して、(1)がんとは何か、(2)がんのコントロール可能性、(3)がん患者理解、といった3つの観点に基づいた内容を普及させる必要がある。多様な機関の連携による主体を構築した種々の実践事例から、がんの教育を推進するための法的基盤整備、ソーシャルマーケティングによる社会規範の醸成、既存の地域組織活動を強化するがんの教育・普及啓発、個人技術を向上させるための情報アクセスの整備、子どもへのがんの教育から大人への普及啓発へ、といった特徴が見出され、対象者や活動方法は多様であった。人から人へがん対策情報を普及させるためには、具体的な普及対象を選定し評価するための仕組みづくりを再考する必要性が示された。「がんの教育・普及啓発」をはじめ、新たな事業や施策を開始する際には、その実施によって健康影響を受ける集団を同定し、ネガティブ影響を最小化したりポジティブ影響を最大化したりするための方策を講じる必要がある。

キーワード：がんの教育, 普及啓発, がんの教育内容, 事例検討, 健康影響予測評価

Abstract

In 2012, the Phase Two Plan to Promote Cancer Control Programs was established, introducing cancer education as a new component. This article describes the diverse approaches practiced to promote cancer education for school children, students, and residents in communities. We explored the development and diffusion of cancer education in each prefecture. To provide the general population with accurate cancer control information, to change the image of cancer, and to create a society between cancer survivors and those who are not, the diffusion of education is needed from the following three standpoints: 1) learning about cancer, 2) promoting cancer control, and 3) understanding cancer survivors. Five practices were found to promote intersectoral collaboration through partnership with

連絡先：助友裕子

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

5-1-1, Tsukiji, chuo-ku, Tokyo, 104-0045, Japan.

Tel: 03-3542-2511 (内線3457)

Fax: 03-3542-3495

E-mail: hsuketom@ncc.go.jp

[平成24年12月10日受理]